

「西成区地域福祉フォーラム」
～みんなで話そう！西成の地域福祉～

2023年1月21日 14:00～

西成区民センターホール

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 お待たせしました。ただいまより、西成区地域福祉推進会議、西成区役所、西成区社会福祉協議会主催により「みんなで話そう！西成の地域福祉」と題しまして、区民フォーラム・見守りフォーラムを合同で開催します。

コロナの影響を考慮しまして、合同開催としておりますことを御了承ください。

また、本日は手話通訳を用意しておりますが、照明の都合上、口の動きが見えにくいいため、フェイスガードをつけずに行います。併せて御了承ください。

私は、本日の司会をいたします地域福祉推進会議事務局の永岡と申します。よろしくお願いたします。

それでは、まず、主催者を代表いたしまして西成区長臣永区長より御挨拶申し上げます。よろしくお願いたします。

【臣永西成区長】 皆さん、こんにちは。西成区長臣永でございます。

今日は、お休みにもかかわらず、また寒い中、たくさんの方がお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。そして、ふだんから西成区政、まちづくりに対しまして、格段の御協力いただいておりますこと、この場をお借りしまして感謝を申し上げます。

本日は、地域福祉フォーラムということで開催をさせていただきました。皆さんも、本当に実感されていると思うんですが、この3年間、いろんところで、今、新年会がありますけど、皆さん、3年ぶり、3年ぶりというふうに言われますけども、この3年間、コロナ禍でなかなかこういう対面でお話をしたり、皆さんの集まる機会が本当に減ってしまいました。そうした中で、長年地域で続けられてきた地域活動が、止まったり縮小したりということになりましたが、昨年から国内におきまして、区民まつりや体育レクリエーション大会、そして地域におきまして、年末には、餅つきや新年会ということがしっかり開催されるようになりました。成人式も規模を縮小して2部制でありますけども、開催をすることができました。若い人たちが元気に巣立っていく姿を見ていると、本当に西成の活力を感じました。

そうしたまちづくりの中で、地域のつながりというのをお支えいただいているのが皆様方でありまして、本当にふだんから地道な御活動いただいておりますこと、心から感謝をしたいと思います。そうしたまちづくりの中で、誰もが子どもたちから高齢者の皆様方まで、誰もが安心して暮らし続けていく町をつくっていくためには、不安は心配や迷いにいち早く事前に気づいて、何をすればいいかということを経験の皆さんと話し合いたいと考えています。

阪神淡路大震災から 28 年ということはよく言われました。3,500 名の亡くなった方、あるいは、助かった方の中で 8 割が家族や近所の方の力で助けられたということが、よく言われました。行政や、例えば消防、自衛隊という組織の力というのは、それはすぐにはなかなか活動できません。何よりも一番大事なのは、地域が助け合って、まず第一に助けに行くということがあると思います。

これも阪神淡路大震災ですけども、神戸の都心部はなかなかですけども、淡路島で、町で死者ゼロという、たしか北淡町ですか、ありました。これは、ふだんからその地域の皆さんが、例えば、あそこのおばあちゃん、玄関入って右の和室に寝てるというようなことをよく御存じで把握していて、いち早く助けに行き、例えば家が倒壊していても、どこにいるか探すというよりも、もうそこで寝てはるんやということが分かっていたからできたということが、今でも言われました。そんなふうに、西成って本当に人情の町で、地域の皆さん方のふだんのつながりが大変強い町でありますので、そういういいところ、特色を生かして、地域の取組にこれからもお手伝い、御協力をお願いしたいと思います。

本日のフォーラムにつきましては、今年度の西成区地域ネットワーク委員として出席された方々の研修会も兼ねております。地域に住む誰もが、自分の周りの方々に気をつけて見守り、相談し、地域とつながることで、地域の支え合う活動の一助となれば幸いです。

今日は、ここにありますように、太子町から貝長さんにお越しいただきまして、1つの例といいますか、発表していただきながら、また本当に地域の皆様方の発表もあると聞いています。

今後とも、西成区の地域福祉の推進のために御協力をお願いし、私からの御挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 ありがとうございます。

続きまして、西成区社会福祉協議会会長越村様より御挨拶をいただきます。お願いいたします。

【越村西成区社会福祉協議会会長】 皆さん、こんにちは。ただいま紹介いただきました社会福祉協議会の越村でございます。

また平素も何かと行事にお力添えをいただきまして、本当にありがとうございます。また、コロナで地域での活動が中止や延期になって大変なときに、見守り支援につきましても、感染予防に留意をしながら行っていただき誠にありがとうございます。

さて、本日は、区民フォーラムと見守りフォーラムの合同開催ということで、行政と支援者、住民の方々が共に支え合う地域づくりを目指し、見守り活動や声かけなどの大切さを第2期西成区地域福祉計画のモデル地域である北津守地域、山王地域の皆様から、地域の取組を報告いただきたいと思います。

本日、講師である太子町社会福祉協議会の貝長室長さんと会場の皆様で、話し合うことの大切さを共有できればと思っております。まだまだ予断を許さないコロナに関する状況、またインフルエンザ予防接種を受けながら、十分に留意をしていただきたいと思います。

結びになりますが、本日の参加の皆様方の健康、御多幸、そして本年もまた皆さんにとってよい年でありますようお祈りいたします。

本日はお休みのところ、御出席いただきまして誠にありがとうございました。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 ありがとうございます。

ここでお忙しい中、御出席賜りました御来賓の方々の御紹介をさせていただきます。お名前をお呼びいたしますので、その場で御起立をお願いいたします。

改めまして、西成区社会福祉協議会会長越村様です。

【越村西成区社会福祉協議会会長】 よろしく願いいたします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 西成区社会福祉協議会副会長崎濱様です。

【崎濱西成区社会福祉協議会副会長】 よろしく願いします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 西成区社会福祉協議会副会長真田様です。

【真田西成区社会福祉協議会副会長】 皆さん、こんにちは。今日はよろしく願いいたします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 西成区地区ネットワーク委員会委員長岩浅様です。

【岩浅西成区地区ネットワーク委員会委員長】 よろしく願いいたします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 西成区民生委員児童委員協議会会長坂本様です。

【坂本西成区民生委員児童委員協議会会長】 どうぞよろしく願いします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 続いて、西成区役所からの出席者を御紹介させていただきます。改めまして西成区長臣永でございます。

【臣永西成区長】 改めまして、よろしく申し上げます。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 西成区副区長柏木でございます。

【柏木西成区副区長】 柏木です。どうぞよろしく申し上げます。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 本日のフォーラムについて、少し御説明させていただきます。コロナ禍の事情で、この3年間は地域活動が制限されました。やむを得ず禁止となった地域活動やイベントも数多くありました。地域がやりたいことや、楽しいことを応援する、何かあれば一緒に考えるために、本年度よりモデル地域を設け、地域の特性に応じて取り組んでいます。今年度は今回の発表者である北津守地域及び山王地域で実践しています。

また、ネットワーク委員の皆さんにおかれましては、日々地域のアンテナ役として、身近な地域での見守り、支援を要する住民の援助、専門機関へのパイプ役として御尽力をいただいております。この場を借りてお礼申し上げます。

今回のフォーラムでは、ネットワーク委員の皆様の研修会も兼ねております。各地域の活動が紹介され、コロナ禍からの活動再開による見守り活動や多様な機関の活用による支え合い体制など、今後の地域活動の参考にしていただければと思っております。

次に、本日の講師である大阪府太子町社会福祉協議会地域包括推進室長貝長誉之様の御紹介をさせていただきます。

貝長様におかれましては、平成16年太子町社会福祉協議会に入職、コミュニティソーシャルワーカーとして相談支援業務に携わり、平成26年に総務係長、平成29年から令和2年まで生活支援コーディネーターを兼務されました。そして、平成31年4月より地域包括推進室長に就任されております。

「和のまち太子町」として、支え合いマップ作りから地域を可視化し、交流サロンを通じて「ご近所福祉」アップを目指す取組をされています。

では、貝長様より太子町の事例について御紹介いただきたいと思っております。貝長様よろしく申し上げます。

【貝長先生】 はい、皆さん、こんにちは。本日、御縁がありまして、事例発表させていただきます私、太子町社会福祉協議会地域包括推進室長の貝長と申します。本日はよろしく申し上げます。

座ってさせていただきます。今日は、難しい話ではなくて、ゆったり聞いていただけると思っていますので、前の画面を見ながらで聞いてください。お手元の資料、ちょっとだけ写真の資料がなかったりしますが、前に映っているので、前を見ていただいたらいいのかなと思います。

ひとつ僕大学の先生みたいにうまくよくしゃべれませんので、その辺だけは御容赦いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、まず簡単に自己紹介と思ったんですけど、今、ほとんど司会の方が言っていたので、こういうとおりでございます。生活支援コーディネーターという職務をしてきましたが、令和2年に後任にバトンタッチしましたので、今現在は、元太子町生活支援コーディネーターというふうに名のついています。

これだけやったら、ちょっと何で、ただの人になってしまいますので、少しだけ都道府県の大阪府のアドバイザーとか、あと実行委員とか、そういった厚生労働省の老健事業のいろいろアドバイザーとかもさせていただいたりしています。

さて皆さん、太子町って御存じですか。大阪で一番知られてない町名らしいですけどもね。太子町というのはちょうど金剛山、葛城山、二上山とかあるんですけども、名前から分かる通り、聖徳太子のゆかりのある町、お墓があります。それから、日本の国道の中で一番古い竹内街道というのが通っています。推古天皇陵があったりとか、大変緑豊かな町なんです。概要ですけど、面積が西成の倍、ただ半分以上山です。太子町の場合ね。ですので、端から端まで車で10分で行けるという物すごくコンパクトな町になっています。人口は、1万3,000人余り。高齢化率については30.2、今3になったかなというぐらいになっていますね。こんな感じです。

本題に入りますけども、みんなで考える太子町の未来ということで、つけさせていただいています。どういうことかという、やらなあかんかったことをやっただけというところなんですけどもね。ちょっとこの辺、お話したいと思っております。

やらなあかんことって何やったかという、これです。「これからのいちばんのこまりごと」、これを住民さんと行政と社会福祉協議会、それから生活支援コーディネーターや関係機関と腹割って話ができるかというポイントです。これに気づいてやっていくというのが、最も大事なことです。これが全ての出発点です。

どういうふうなことをしたかというんですけども、きっかけは、平成26年介護保険法の改正です。ちょっとこの辺がどういうふうに変ったかって、なかなか分かりにくいん

ですけど、説明入れさせてもらいました。26年の介護保険の改正では、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護というか費用、それから生活支援や介護予防を充実させることが目的で改正されてます。そのために、全国一律の予防給付、これは訪問介護とか通常介護なんですけども、それを市町村が取り組む地域支援事業に移行して、多様化を進めなければならないということになりました。

つまり、どういうことかという、全国一律の介護保険が、地域の実情に合わせた取組ができる介護保険に変わった。ややこしいでしょう。いいふうに変ったか、悪く変わったか、分からんでしょう。つまり、全国1,741の市町村で差が出るということです。やっていると、やらないとこというのが、出る差ができるよということですよね。

それをするために、太子町内でもいろいろ取組しました。行政の方と社協の職員でチームをつくって、いろんな情報収集したりしてるんですけども、なかなかうまくいきません。地域の実情に応じてと言われるんですけども、これが難しいですよ。何せ介護保険は2000年から始まってまして、全国一律です。今までは、北海道から沖縄まで、全部全国一律です。それが一部とはいえ、枠の中で自由に地域の実情を反映させた仕組みをつくってください、やってくださいということになります。これ、なかなか難しいでしょう。

なので、私たちも厚生労働省のガイドラインというのを読んで、いろいろいろいろ試してみたんですけど、なかなかそれがうまくいきません。ここにも書いてますけども、それって、手順なのか、何をどうやったらいいのというのが分からなかったというのがあります。

ただ、1つ分かったことは、やっぱり分からなかったら地域に入って聞こうということですよね。制度が変わって、行政や社協がばたばたするんです。行政は、何と言ったかという、これ、太子町の場合ですからね。ほかの市町村の方を悪く言ってるわけ違いますよ。太子町の場合は、住民主体はこうあるべきだ、こんなサービスをやってほしいって言います。社協さんは、地域福祉はこうあるべきだと。あのグループにやってもらおうという話になるんですね。でも、どう考えても僕、打ってますけども、ちょっと上から目線とか、違う方向を向いたことを言うてるのかなと思ってました。でも、行政も社協さんも、太子町をよくしたいという気持ちだけは、物すごく強かったんです。

私たちが話し合っ考えたのが、太子町を思う方向性が一緒だったら、目線を合わせてよいものを一緒につくろうということになりました。住民さん目線で、一緒にやろうということですね。

実際どんなことをやったかという、地域の実情は、地域の住民さんに聞こうというものでした。こういうものをつくりたいとか、そういう行政の考えが先行したり、私たちは地域のことをよう知ってんねんという社協さんの思い込みというのを全部捨てて、住民さんから生の声を聞いて、一緒に考えていこうということに徹しました。

2016年から町会、自治会を回って、地域づくりからの支え合い勉強会というのをさせてもらって、これからの人口が少しずつ減っていく、それから少子高齢化ですよ。太子町の将来について、みんなで考える機会というのを設ける。そういう座談会をさせていただきました。

主な目的は、10年後の太子町を「知る」、太子町の将来を「考える」、キラッとした人材を「見つける」ということです。内容はここに書かせてもらってるとおりですね。

「知る」「考える」「見つける」は、参加者全員でというところ、それも徹底しました。行政や社協で座談会をするとしたら、ちょっと一方通行型の説明会みたいなことになってしまうんですけども、双方向に話し合える場として、勉強会を設定しました。住民さんが知ってもらうだけではなくて職員が「知る」、住民さんに考えてもらってるだけじゃなくて職員も「考える」、住民さんが「見つける」だけじゃなくて職員が「見つける」というところですね。

要は、住民さんの勉強会だけではなくて、私たち職員が勉強する場であったわけですね。住民さんの思いとか、ここからちゃんと地域の実情を知ってこそ、生活支援体制整備事業という、その介護保険、新しい事業ができると考えたわけです。

西成区の第2期地域福祉計画では、「知る」「気づく」「相談する」「話し合う」とかというのが書かれていますよね。より太子町よりも洗練されてるといいますか、熟成されてるのかなと思いました。

これがその当時のスライドです。多いところは、50人ぐらい来てくれます。でも、少ないところは2人。私たち大体チームで4人でいつもお伺いするので、私たちのほうが多いという地区もありました。お叱りも、かなり怒られたりもします。行って、今まで役所に社協にお叱りも大分受けてたりもしましたけども、でも、思いのほか5年後、10年後、皆さん一緒に考えてくださいました。こんな感じですね。勉強会は、朝、昼、晩、土日問わず、町会、自治体の都合にできるだけ合わせて実施して、お子さんに来ていただいても大丈夫ですよって感じですね。ここ、写真にもお子さん写ってますけど、いろんなワークショップもさせていただきました。

大体4分の3の町会、自治会回って、それから福祉団体さんにも説明させてもらって、いろんところ、いろんな人の声も聞かせていただきました。一通り地区を回って、もう少し太子町の将来を考えたいという方に案内出したところ、30名の方が集まってくださいましたので、ざっくばらんに太子町のあったらいいなワークショップというのをさせていただきます。

あったらいいなワークショップというのは、いわゆるブレストという手法を使うんですけども、もちろん聞きたいのは、この③、④の④の赤枠のところですよ。ホワイトボード、写真見てもらったら分かりますけども、何でもありですから、スポーツジムつくってほしい、ただのプールつくってほしい、温泉掘ってほしいとか、いろいろ出てきます。飲食店、太子町あまりないので、お酒飲めるところつくってほしいとか、いろんなものが出てきますね。

そういうワークショップを終えて、それから1か月後、またワークショップします。より深く話し合ってもらう場ですね。2回目のワークショップです。前回出た、あったらいいなをより厳選して抽出する作業を行います。

その抽出には、こういうわがごと厳選シートというのを使って考えます。これ、どうやって使うかという、例えば、サービスや資源が太子町にあれば、私、お年を召した方、障がいのある方が便利になる、助かる、理由は何々だと思ふからというのを書いてもらうワークショップです。これ、こうやって発表してもらいますよ。自分たちの班で話し合ったことを、この組でちゃんと発表してもらいます。ほかを聞いて、また考えたり。これ、案外難しかったみたいなんですけどもね。

何でこのシートに書き出すかという、抽象的で非現実的な、あったらいいなの内容が、人ごとのような、要るんちゃう、助かるんちゃうではなくて、具体的に自分のこととして、太子町に本当に必要なもの考えるきっかけになるからなんです。きれいごとじゃなくて、ほんまに上辺じゃなくて、ちゃんと考える。これ、単純なんですけども、めちゃくちゃ大事なのかなと思ってます。

ここで、まず住民さんの考えてること、それから行政や社会福祉協議会や生活支援コーディネーターの考えていることのギャップを埋めていく作業も並行して行っています。できるだけ住民さんの目線に、一緒に考えるようにしていきます。

これ、年が明けて、次のワークショップでは、わがごと厳選シートって厳選したものを、より具現化できる仕組みをつくって行きましょうというワークショップをしました。いろ

んな話が飛び出します。これも物すごく大事ですよ。

中には、私らでやろかなとか、あの人に頼んでみようかという話が出てきます。もうわいわいがやがやしますよね。みんなで想像していく、想像しながら考えていくワークショップです。

ここで、皆さんの意見を集約したところ、ちょっと見にくいですが、A B C Dホワイトボードに書かさせてもらってますけども、移動手段、集いの場、それから買物支援に隣近所、町会、自治会の活性化というA B C Dの4つ意見が出ました。この4つを分科会形式にして、次はまた話し合ってもらおうというワークショップします。

ふだん、暮らしの幸せプロジェクトとして企画書を作るワークショップですね、最終は。5W1H、いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのようにというのを企画書に入れながら、大阪人らしい面白いエッセンスも入れながら進めていきまして、こうやって自分たちで発表してもらいます。プレゼンテーションしてもらいます。自分のこととして考えたことだから、発表する者も真剣ですし、聞くほうもいろんな発想をもらうので、かなり真剣に聞いてました。

流れとして太子町では、こういう手順で地域の実情を「知る」「考える」「見つける」という手順を踏んだことであります。この後、平成29年4月に協議する場を正式に設立して、話し合う、つくるというのを実践しています。

ちなみに、ここに住民主体って太子町も使ってるんですけども、太子町で使う住民主体の言葉の意味についてなんですけども、私たちが使う住民主体は、住民にしてもらう、住民だけがするという意味ではなくて、住民の考えが反映する仕組みで参加して、一緒につくり上げるという意味で使ってます。

先ほど申しあげました協議する場というのが始まりまして、さっきその協議する場で何をやっていきましょうという話に、第1回目になったんですけども、その場で勉強会で出たやつそのままやろうやないかと話になりまして、この4つが4大テーマとして、太子町では抽出して引継ぎながらやっています。

2回目は、その協議する場で、では何からやっていましょうという話をするんですけども、一番初めに移動・外出支援せえへんかという話が出ました。これですね。太子町、先ほど言いましたけども、半分以上が山です。なので坂が多いんですよ。なので、車やバイクがなかったら生きていかれへんという話が出ました。なので、これに皆さんが同意されたので、移動・外出支援というのをまずやっていこうということになります。

でも、移動・外出支援って、皆さん、地区の中でとか考えはったことってありますか。これ、実は割合、難敵でしてね。大阪府内では、僕、社会福祉協議会の職員ですけども、たまに手を上げてやりたいとは言いたくないなというような代物なんですけどもね。うち、協議会で決まったことなんで、一応これほどないかせなあかんというところで、やっていったんですけども、よくよく考えてみると、買物代行とか居場所づくりというほうが簡単やと思ってましたけども、それをやるにしても、最終的には移動支援というのに関わってくる。何か1つ考える、買物代行、買物支援を考えると、やっぱり一緒に移動したり、買物連れていって一緒に買物するというのも出てくるので、何か1つ考えると、もう一つが必要になるというところ、単品単品で考えずに、これをやるとほかにも全然よくなるんじゃないかというふうに考えさせてもらいました。

その話をしてる中で、地域でサロン活動と。多分、この西成区でもこういうふうなサロンされてる方おられると思いますけども、こういう話が言うてきてくれはりました。この問題も待ったなしやから、私らするでというふうに声かけていただきました。

ここ、皆さん、ちょっと気を悪せんといってくださいね。この方々に皆さんに御了解得てるんですけども、もうほんまの河内のおばちゃまです。物すごいパワーある、この方々。この河内のおばちゃまと河内のおっちゃんが、こういうふういろんな仕組みというのを一緒に考える、太子町に合うたやり方しようということで考えてくれはりました。

何をまず考えたかという、目的、それから行き先ですよ。で、外出する、しなければならぬという意欲の大切さ。少し手助けがあれば助かるという生活上の困りごとまで、いろいろ考えました。おっちゃん、おばちゃんらも、自分らも、親を見てるときにこう思ったとかいうこともありますよね。なので、そういう話もしながら、何があったら助かるんやろうというところを、かなり議論をさせていただきました。

結果、住民主体の生活支援サービス、移動支援サービスが大きく前進します。こうやって生活支援で換気扇の掃除とか、家の模様替えとか、衣替えとかというのをしたりとかです。真ん中は、移動支援というところで、病院と一緒に付添い支援をしてるというやつですね。

現在、生活支援サービスは2団体、移動支援サービスは3団体、太子町ではございます。大体人口1万人につき1団体あったらいいところ、移動支援はね。なので、太子町は1万3,000人で3団体あるので、かなり今は充実してるのかなと思います。こんな感じで、これが大阪の河内のおっちゃんです。それから河内のおばあちゃんも、マイカーボランテ

ィアってところですね。

町内の3つの生活支援サービスのグループは、平成30年から道路運送法における登録、または許可を要しない、法律はちょっと難しい、ややこしいやつですね。登録が必要ないという運送の形態で生活支援と一体型でやらせていただいています。だから、太子町における住民活動で実施する活動は、全て国土交通省、近畿運輸局、大阪運輸支局の運輸部門に確認をさせていただいています。ただ、やり出して1年ほどすると、東京の国土交通省の本省から電話がありまして、ヒアリング、聞き取り調査やりたいということで、かなり怒られるのかなと思ってびくびくしてたんですけども、全然怒られなかったんですけどもね。

なぜ許可とか登録型をしないんですかということで、大分話合いというか、話を聞きに来られました。そのときに、許可登録は、やっぱり住民活動にはハードルが高いですよとかという話も、ざっくばらんにお話させていただいて、その結果、こんな感じで、見ていただいて。皆さん、お手元資料にもあると思うんですけどもね。許可登録不要の家事・身辺援助サービスの一環として送迎する生活支援サービス、これが2019年10月の国土交通省の高齢者の移動手段を確保するための制度、事業モデルパンフレットに、きちんと明文化されるようになります。これ、太子町のおじ様、おば様がつくった形なんですけども、その明文化されるようになりました。

もちろん、居場所とか通いの場、それから買物とかもいろんなところ、同時に充実もしていっています。

これだけ充実してくると、やっぱり社協さんもいろいろ入って動いてくれます。センター行きワゴンの空き時間を買物支援に回してくれたり、これ、こんな感じで91歳の方、この当時91歳ですから、今93歳で買物一緒に行ってくれてはるんです。これもそうですね。これ、右端の男性、店員さんではないんです。これ、役場の高齢福祉課の課長です。ちゃんと役所の介護課長とか福祉課長が現場に見に行って、介護の高齢者の困りごとというのが、どんなものかというのをちゃんと見て、考えてくれています。なので、行政もいろいろ、移動支援というのが大層充実してると言うたんですけど、ほぼ皆さん、マイカーボランティアされています。そのマイカーボランティアで、やっぱり事故とか不安があるというところが1つでも解消するように、公用車2台購入してくれています。この公用車を住民団体に貸出しする仕組みというのをつくっています。太子町のたいしくんというマスコットキャラなんですけどもね。こういう仕組みも行政がつくってくれました。

近しい者が困ってるとか、その年齢近くにならんと分からんことって多分あると思うん

ですね。必要なものはつくるのか。やらされたんじゃない仕組みを構築して、数年先にうちの町、何にもないわではなくて、あのときやってよかったわとなるように、みんなで住み心地のいい町というのを考えて、すぐ先の 2025 年、2040 年に備えます。若い層の方にも参加してもらいながら、巻き込んでいきたいと考えています。

全ての町村が、その実情によって手順とか取っかかりというのは違います。これからの市町村の人口比率や高齢化率、それから、一番大きな問題は介護人材不足ですよ。人手が足りないという介護人材不足ですね。それをどう補うか。地域の担い手と言われる方を、どう確保するか。人と人のつながりが希薄化する中で、何に備えるか。本当に必要なものを見極めて、整理して、「これからのいちばんのこまりごと」、これを1つずつ減らせるように頑張っていけたらいいのかなと思ってます。

最後に、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりをつくり上げるために、みんなが支え合い、つながる西成区を目指していきましょう。

私からは以上です。ありがとうございました。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 どうもありがとうございました。非常に分かりやすい内容で、参考になると思います。

ここからは、続いて発表者の山王地域の方、北津守地域の方の紹介をさせていただきたいと思います。

まず、北津守地域のほうなんですけども、北津守ネットワーク委員長崎濱様でございます。同じく北津守ネットワーク委員森澤様です。

続いて山王地域ですけれども、山王地域連合町会長小西様です。山王子どもセンター施設長田村様です。

【田村山王子どもセンター施設長】 よろしくお願ひします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 山王みどり苑施設長安藤様です。

【安藤山王みどり苑施設長】 よろしくお願ひします。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 ありがとうございます。

ここからは、本日の発表者である北津守地域、山王地域で活躍されている方々から、ふだんの活動状況として紹介をしたいと思います。進行につきましては、貝長様をお願いしたいと思います。貝長様、よろしくお願ひいたします。

【貝長先生】 引き続きよろしくお願ひします。

少し私も西成区のことを勉強させてもらいまして、北津守地域は区役所から遠いとか、

それから山王地域については、僕は難波に車で時々阪神高速を通ってる、ああ、この辺りかということもいろいろ考えながら見させて読ませていただいています。

この中から、地域活動のキーになると言うんですかね。私がぜひとも伺いたいなという話を、まず、北津守地域のほうからお伺いしたいと思いますので、崎濱様、森澤様、よろしくをお願いします。では、北津守地域のほうから、ちょっと私がいろいろ読まさせていただいた中で、気になったなと思ったやつを聞かせていただきたいと思いますと思います。

まず、居場所、太子町で先ほど言いましたけど、居場所とか集いの場って物すごく大事なのかなと思うんですけども、ふれあい喫茶というのを運営されてると思うんですけども、その概要とか、大体週どのぐらいやって、何時から何時までやってるとか、そういうことも含めて、皆さんに御紹介いただけたらなと思うんですけど、よろしくをお願いします。

【森澤北津守ネットワーク委員】 北津守です。よろしくをお願いします。

私たちボランティアは、80歳前後の高齢者ばかりなので、若い人たちにも入ってほしいと思い、行事があるたびに手伝ってほしいと頼んでいました。そのときは、もう少し待ってほしいと言われていましたが、一度PTA、OBの人たちに喫茶をしているところを見てもらおうということになり、来てもらいました。その結果、若い人たちで話し合い、毎月第2日曜日なら都合がよいとのことで、即決まりました。事前の買物は我々が、そして当日は若い人たちと一緒に厨房で下準備、受付、お運びさん、時には話し相手もします。さすが若い人たちはすることが早いし、頼りになります。そして、和気あいあいとみんな楽しくやっています。そして、もう一つ、社福の方々の協力を得て、子どもたちの遊び場をつくってもらいました。ありがとうございます。

まだ周知が行き届いていないので、子どもたちの参加が四、五人です。これからいろいろな人に声かけしていきたいと思います。子どもとお母さんたちに参加してもらう中で、ボランティアのほうにも興味を持ってもらい、空いた時間にちょっとでも来てもらえたらと。そして、次につながっていければいいと願っています。

以上です。一度北津守の喫茶に来てください。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

【貝長先生】 ありがとうございます。すばらしい取組ですね。あと、PTAとかOBの方に頼みに行こうというのは、どなたが。

【森澤北津守ネットワーク委員】 役員さんです。

【貝長先生】 役員さんで。なかなかすごい発想ですよ。それは第2日曜やったら

大丈夫やよということで、すぐ決まったっておっしゃいましたけども、スピード感が速い、すごいですよね。どうですか。今まで皆さんだけでやっておられた活動に、PTAの方とかOBの方が入るといのは、ちょっと若い世代、ちょっとだけ若いですか。大分若い世代。

【森澤北津守ネットワーク委員】 うん。

【貝長先生】 40代。30代ぐらい。

【森澤北津守ネットワーク委員】 40代。

【貝長先生】 40代ぐらいの人というの、お手伝いしていただけるスタッフとしては、かなり若い年代の方が入っていただけてますけども、何か活動の雰囲気とか変わりましたか。

【森澤北津守ネットワーク委員】 若い人が入ってくればったので、活気もありますよね。

【貝長先生】 お任せするところは任せして、やっていただいたりとかということですかね。それ、なかなかいい巻き込み方が自然とできたということですよ。すごいですね。なるほど、ありがとうございます。

新型コロナウイルス、今日、区長のお話にもありましたけども、コロナで3年という中、なかなか活動がストップしたり、できなかったこととかいろいろあったと思うんですけども、どうでしょうか。2020年ぐらいからのコロナで、ふれあい喫茶の活動とかは、どんな感じになりましたか。

【崎濱北津守ネットワーク委員長】 それはできなかったです。

すいません、座ったまま失礼します。コロナが始まってから、喫茶は全然できなかったです。ボランティアをお願いしてたということで来てもらったのが、5月の初め頃でしたかね。一度やってみよう、5月29日です。やってみようということで、参加していただいて、その後終わってから反省会ではないんですけども、気がついたこととか、今日、どんな感じでしたかというような話合いをしてる中で、じゃ、次、いつぐらいやったら手伝ってもらえますかという話をした時点で、第2日曜日なら、何とか手伝えますよという話をいただいて、皆、ほっとしたというか、よかったという感じがしました。

【貝長先生】 ありがとうございます。

そうですね。コロナでなかなか活動ってストップしますよね。

それでは、1つ、2つ、僕がいろいろペーパー見させてもらって地域福祉活動気になると思ったのが、高齢者食事サービスの件について、臨機応変にいろいろ活動をやられた

というふうにお伺いしたんですけども、皆さんに御紹介いただけたらと思います。

【崎濱北津守ネットワーク委員長】 食事サービスのコロナが始まるまでは、業者の弁当を取って、手作りの汁物をつけて、会食会で憩いの家でしてたんですけども、それができなくなったので、テイクアウト方式、取りに来ていただいて、配食をしたいんですけども、なかなかボランティアさんの高齢化でちょっとしんどいなということで、それと出てきていただくということが目的なんで、できるだけそういう形式を取りたいなと思ひまして、テイクアウト形式にしました。喫茶ができなかったので、月に2回、第1と第3の土曜日、2回に増やしました。増やしたのは、最初は1回だけやってたんですけども、参加者の方に、もう一回増やしても来れそうですかって尋ねると、1食でも助かるからしてほしいという話があったので、2回にいたしました。そのときに、担当者の様子を見て、声かけをしたり話を聞いたりして見守りをしています。

喫茶がぼちぼち始まりましたんで、今年度からは、また1回に戻そうかなと思って、食事サービスの後、ボランティアさんでお昼一緒にいただくんですけど、そのときにお話し合いをなされ、それで、もうそろそろいいんじゃないですかということで、1回にすることにしました。

【貝長先生】 なるほど、なるほど。でも、コロナの中で、あえて1回を2回に増やすところ、すごく臨機応変に見守りの回数を増やしたところですよ。来ていただくという発想がいいですよ。それで顔も合わせられますしね。ちょっとおしゃべり、コロナといっても、やっぱり話をしてというところが、どんな感じなのか、よく見れますもんね。素晴らしい活動です。ありがとうございます。

それから、北津守地域におかれましては、見守り名簿、かなりいいものをされてるとお伺いしました。日頃の顔が見える関係、先ほどの配食というところも増やしたというところもありますけども、見守り名簿というのをマップにも落とされて、見られてるところなんですけども、その辺の工夫の仕方とか、見守りの仕方というのを教えていただけたらありがたいです。

【崎濱北津守ネットワーク委員長】 要援護者登録で、登録された者の名簿を持っていたんですけども、名簿だけではどこら辺に住んではるのかなというのがみんなに見えないので、11月、12月でしたかね。連合の役員会の時点で地図を作っただきまして、その中に住んでおられる方の住所を打ち込んで、見える化ですかね。そういうのをさせていただきました。

【貝長先生】 どうでしたか。地図に落とされたら。

【崎濱北津守ネットワーク委員長】 やっぱり分かりやすいです。

【貝長先生】 やっぱり見える化ですもんね。どの地域に固まってるのかな、お一人暮らし、高齢者世帯が分かったりとかしますものね。マップに落とすというのが、人間のその方を落とすというのがありますし、ハザードマップというのがあったりとかね。つながりを落とし込む、支えるマップとかいろいろあるんですけども、その見守りマップを落とされるというのは、すごく多分見える化としては有効なものかなと思います。ありがとうございます。

最後に北津守のほうでは、市役所から一番遠いというところとか、電車の、この区役所のほうに来るのにちょっと不便かなという話をお伺いしたんですけども、今現在、移動の手段とか交通について、どんなふうにお考えですか。何か要望とかはありますか。

【崎濱北津守ネットワーク委員長】 先ほど太子町のほうでもありましたように、移動がとても大変です。区役所に来るのに、1本で来れることはないんで、皆遠回りをして来られたりとか、大抵だから来られるのは、自転車が利用できる方が主だと思います。買物も、昔、買物難民じゃないですけども、そういうのもありました。今現在は、ラ・ムーさんができましたんで、少し。

【貝長先生】 買物が。

【崎濱北津守ネットワーク委員長】 買物が楽になったと思います。

【貝長先生】 ありがとうございます。

では、お時間のほうが来たようなので、今度、山王地域のほうに移りたいと思います。北津守地域の方、ありがとうございました。

では、山王地域のほうに。お待たせしました。ありがとうございます。では、よろしくお願ひします。

先ほども申し上げましたが、阪神高速通って、山王地域ってこのこと、このカーブのところを言うんかというのを調べてて思ったんですけども、僕もスライドに出しましたが、協議する場というのが、なかなか簡単なようでないですよ。地域ではね。山王地域さんにつきましては、うちの協議する場というのと同じようなものが、物すごくいいものが定期的実施されてるといふふうにお伺いしましたので、その辺をちょっとお伺いしたいなと思っておりますので回答よろしくお願ひします。

【小西山王連合町会長】 改まって協議するなんて言ったらあれですけど、私たちも北津

守と一緒に、高齢化で町会で世話するのは高齢者ばかりで。そのときに、若い子にこうしてほしいとか、こんなことしたらという声が出ますので、そのときに、じゃ、一遍集まって話しようよ、ただ、それで始まっただけなんです。

もともと、地域的に西成区でありながら、子どもたちは阿倍野の小学校、金塚小学校というところに行くんです。だから、学校と地域とが密着できないんですよ。こういう場合は、なかなか難しいですよ。だから、山王の子どもたちだけでも集まって遊べるような場所が欲しかった。そのときに、阪神高速が真ん中に通ってます。今、講師の方からもお話あったように、その下の広場が空いてます。まず、山王保育所の子どもたちが、そこで運動会とかできる、またサッカーの練習ができる。そういうことから子どもたちと接触ができるようになったんです。

それから、卓球台を置いたり、それから最近若い人から、バスケットボールが盛んになってきたんで、これを置かせてくれへんかというような話が出ましてね。

【貝長先生】 ボールとか。

【小西山王連合町会長】 そうなんです。そのときに、うん、やってみたらという話。それから、そういう話合いの場、地域で広がっていったというようなことです。だから独自に協議して、あれして、これしてという手順じゃなくて、自然発生的にそういう場ができてきたということです。今、2人並んでますけども、こどもセンターの施設長さんとか、それから山王にできたデイサービス、介護スペースの施設長だったりとか、それから山王保育所の所長だったりとか、それから郵便局長だったりとか、そういう人たちと自然的に話ができるようになった。そういう感じのまちづくりですが、町になってきたなということです。

どちらかという、子ども中心のまちづくりという感じ。私は子ども好きで、おじいちゃん、おばあちゃんよりも子どものほうが好き。

【貝長先生】 なるほど、なるほど。学校が、隣の区やというのは、なかなか珍しいというんですかね。そうですね。なかなかそういうと、通学のときの接点とかが少ないというところがあったのかもしれませんがね。協議される場で、特に名前とかをつけてはらないですか。その協議。

【小西山王連合町会長】 名前は、何という、地域活動協議会かなという名前がついてます、基本的に。

【貝長先生】 いろんな多種多様な方が皆参加されるんですよ、地域活動協議会は。

【小西山王連合町会長】 そうですね。その都度、その都度集まってくるのは、何か色々違いますけれども。若い人がやっぱり主体になってもらわないと。

今まで各地域でやってたのは、皆さんが各地域でやってるように、百歳体操だとか、ふれあい喫茶だとか、そういうお年寄りのサークルが、グループはたくさんあったんですけども、子どもさんを主体にしたような集まりが、なかなかできなかったものですから、そういうのをつくってほしいなというのを青指の人たちに話しかけて、問いかけてもらっていろいろ集まってくれて、発案してもらえるようにはなっています。

【貝長先生】 ありがとうございます。

青少年指導委員さんとかが、ちょっとキーになるような方になってたんですね。

【小西山王連合町会長】 はい。

【貝長先生】 その中に、山王こどもセンターの、今日田村さんも来られてまして、どうですか。子どもさんと交流する場が、山王地区では物すごく活発化してる、活性化してるというところのお話やったんですけども、いかがですか。

【田村山王こどもセンター施設長】 まず、こどもセンターがどんなところかって、御存じの方もいらっしゃると思うんですけども、一度どんなところかお話をさせていただきます。

こどもセンターは、1964年にドイツ人の宣教師のストロームさんが、ここで何かでないかなというところで、1人の女の子を預かってほしいということで始まりました。その後、うちの子も見てほしいわということで、どんどん子どもたちが、そのときは幼児さんですね。集まってきて、子どもの居場所ができたというふうになります。その後、幼児さんから学童期の子どもたちも一緒に過ごすようになって、そこから中高生とか、そこから育ったOB、OGとか、子どもたちの遊び場として活動させてもらっています。

昔から地域の人たちが気にかけてくださって、子どもセンターの行事に足を運んでくださったりとか、こんなあるけどどうですかという声をかけてもらってたんですけども、地域と一緒にやって会議で何か話すということは、このコロナになってからになります。そのとき、ちょうど世代交代で、前の施設長から私に替わったりでして、何かちょっと分からない状態で私も始まっているので、地域の人たちが会議に参加させてもらって、そこから一緒に何かしようよということで、何か伴走してもらえとかいうことで、すごく心強く思います。

私が来たときから、地域の遊び場、高架下の北広場というところなんですけど、そこも使わせてもらってたりとかしていました。そして、ちょうどこどもセンターが活動していた

場所が、老朽化で建て替えることになって、今、仮住まい先で過ごしてるんですけども、今まで過ごしてたところと都合が違うので、小西会長にも相談させてもらって、集会所を使ってもいいよ、この広場、時間外やけど使ってもいいよというところで、子どもたちの遊び場として使わせてもらってて、たくさん、とても心強く自分たちができない範囲も一緒になってやってもらえるというところが、すごくいいなと思っています。

【貝長先生】 ありがとうございます。

最近、子どもさんとかが公園で本当に遊ぶ中で、うるさいって言われたりとか、ボール遊びも公園あかんとかいうところも多いですけどもね。小西会長、集会所の会合、そんな人もオーケーやったりとか。

【小西山王連合町会長】 はい。オーケー言います、そうですね。立派な施設があるんです。正直言うとね。せっかく施設があるのに、何か使う方法はないかという、今までだと、年寄りの会ばかりでしたんで、子どもたちが一緒に遊んでくれたらなということであると。今、私が集会所におるときは、地域の子もたちが、同好会、日本橋のほうかな、自転車乗ってバスケットをしに来るような子どもたちもいます。ところが、なかなか集会所を1日留守番できるわけじゃないんで、今のところ留守番を募集してるぐらいです。そんな形で自由に遊んでもらってます。

【貝長先生】 なるほど、なるほど。いいですよ。本当にゲームばかりじゃなくて、外で遊べる、外でちょっと体動かせる場所がちゃんとあるというのと、それを開放していただけるというのはすばらしいことやなと思いますね。本当にすばらしいなと思います。

では、みどり苑の安藤さんにもお伺いしたいんですけども、山王地域の活動取組というので、いろいろお手伝いとか、いろいろ主体的にも関わっておられると思うんですけどもね。どんなイメージですか、地域のイメージは。

【安藤山王みどり苑施設長】 そうですね。私、社会福祉法人山王みどり会の施設長、安藤と申します。地域のお話の前に、うちの法人の成り立ちが地域に大分関わっておりまして、そもそも山王みどり会がなぜ発足したのかといいますと、地域柄、独居の方であったりとか、身寄りのない方というのがとても多い地域だったんです、山王地域は。その方たちの受皿をどうにかつくりたいということで、2代前の理事長が発足したというのが、この山王みどり会できたときの流れになってます。なので、そこから地域ということについて、みどり会はずっと取り組んでまいりました。

私どもの考える地域としましては、やはり私どもは介護の施設ですので、もちろん介護

サービスを提供させていただいております。ただ、地域の高齢者の方、それを見るのが介護サービスのみでは、やはり見えないところで介護必要な方が、適切なサービスを受けられないことであつたりとか、ただ歩いて転倒されてけがをしたときに、近くに要介護者がいなくて、それが発見できずに大きなけがにつながってしまつたりとか、そういうことが起きる中で、地域の目というのがやはり大切だなというのが、私ども実感しております。

その中で、今、こどもセンターさんとも、野菜づくりとかやっただいただいているんですけども、子どもたちの目、そして子どもたちを見る高齢者の目というのが、すごく大切だなと実感しております。

そういうふうに、私どものところと地域と交流させていただいて、これができるのも、一緒になってお互いを見守っていくような地域づくりに貢献できたらなと思っております。

【貝長先生】 ありがとうございます。

地域の中での交流というところで、地域の目というところ、みどり苑の安藤さんにもおっしゃっていただきましたけれども、やらされ感とかいうのがあまりなくて、すばらしいですよ。小西会長とかおっしゃってるんですけども、目的が子どもさんというところが、一つ絶対明確にあるので、本当に今も安藤さんとか田村さんと巻き込みながらやっておられるなという印象を受けましたね。

安藤さん、介護の施設側からして、今の山王地域の町の感じとしては、どうですか。ほとんど利用者は、山王地域の方なんですか。

【安藤山王みどり苑施設長】 そうですね。うちの施設ですと、大体7割ぐらい山王地域からの利用者様になっております。

【貝長先生】 どんな感じですか。やっぱり高齢化とか、少子高齢化多老化とかいろんな言葉が、今この業界では出てきますけども、山王地域を一言でいうと、どんな感じですか。

【安藤山王みどり苑施設長】 山王地域を一言でいうと、私どもが介護サービスを提供する上で一言で言わせていただくと、既存の介護サービスでは補い切れないような地域であるかなと思っております。

【貝長先生】 何か新たなサービスをつくり出すとかということですか。

【安藤山王みどり苑施設長】 できたらいいですけどね。ただ、既存のサービスとやらは、どうしてもニーズに答えてさしあげられないことであつたりとか、やはりお一人で住まわられている方は、いろいろなことに直面することがあります。そういった方に、どう僕らとしては援助をしていくのかというところが、課題としてやっぱりあるかなと思っております。

す。

【貝長先生】 ないものはつくっていくというところで、ひとつ地域の方を巻き込みながら。

【安藤山王みどり苑施設長】 そうですね。

【貝長先生】 やっていきたいと思いますね。よろしくお願いします。

田村さん、新しくできるんですよ。

【田村山王子どもセンター施設長】 はい、そうです。

【貝長先生】 それもちょっと皆さんに、PRだけしていただいてもいいですか。

【田村山王こどもセンター施設長】 そうですね。今ちょっと更地の状態なんですけれども、6月末完成に向けて、今準備を進めています。今までは基本的に建物が古くて、子どもたちの居場所だけというようなところでとどまっていた部分もあると思うんですけれども、地域の高齢者の方にも、例えば一緒に食事作ってくれませんかとか、第1、第3水曜日にこども食堂というか、地域の人が誰でも来てもいいですよという食堂もさせてもらっているんで、その食堂を手伝ってもらえませんかとか、そういった形でもお声がけさせていただこうかなとも思っています。子どもたちは、いろんな世代、年齢層の方がいる中で育つということが大事だと思うので、ぜひ皆さん、完成したら見に来てください。よろしくお願いします。

【貝長先生】 ありがとうございます。新しくできたら、またいろんな活動が活発になるかもしれませんね。

では、大体お時間のほうが来ましたので、北津守地域の方、それから山王地域の方、ありがとうございます。

物すごく巻き込みながら、多世代、多様な主体を巻き込みながらされてるところが、2地域ともよく分かってらっしゃる方だと思うんですけれども、何か今やられてる活動の中で、今日来られてる皆さんから質問というのは、どうでしょうか。ないでしょうか。私とこは、ちょっと違うけど、こんな活動してるよということの発表でも構いません。まだちょっとお時間ありますので、皆さんといろいろ御意見をお伺いしたいなと思っておりますので、いかがでしょうか。ぜひともよろしくお願いします。

また、質問とかどうですか。北津守地域とか山王地域の方に質問とかあったら、挙手のほうお願いします。近くにスタッフが参りますので、ぜひとも。同じような活動をしてるよとかというのでも構いませんよ。

【会場（松之宮地域）】 すみません。

【貝長先生】 はい、どうぞ。

【会場（松之宮地域）】 よろしいでしょうか。21年に松之宮小学校が廃校になりまして、まつばへ移転してきたんです。するとやっぱり、町の活気というのはぐっと下がって、これは大変やなと思いながら今おまして、今、山王さんのお話にもありまして、いや、あそこ子どもさんが隣の区のほうに行ってるの多いというのを聞いたら、そういうことで、めげとったらあかんねやなという思いがありました。

それと、今年度は昨年、防災訓練を初めてやらせてもらって、令和5年度は、区役所で防災訓練と避難所の掃除を兼ねて申請しようかなと思っています。その折には、正規のメンバーにも集まってもらって、自分のこととして防災を考えようというような意味合いもありますところで、いろんな方に入ってもらって、ほんと防災も大事なんですけれども、1つの問題でもある、いろんな地域の活動の後継者というの、どんどん入ってもらえる機会にしていきたいなというのを、ちょっと私感じましたし。

あと、小学校というのがないというのは大きなデメリットかなと思うんですけども、考えを先に行って、これやったら、おっしゃったようにPTAさんともっと深く活動を通じて、そういうように交流が深められたら、私たちも地域のボランティアに貢献するというのは、少しでも年齢が若くなるんかなと。いつもいつもほかの地域をうらやましいと思うのではなくて、やっぱり前を見ながら、希望を持ちながら、やっていけるんちゃうかなと思って、今日も北津守さん、山王さんのお話聞いて、ああ、勇気もらえた、頑張ろうという思いが、元気もらいました。以上です。

【貝長先生】 ありがとう。本当ですよ。僕初めて山王地域の資料読ませてもらったときに、小学校が違うところという、校区をね。行くと、なかなか普通やったらおっしゃるとおり、さびれていくというんか、通学で出ていっただけでということで、なかなか顔を合わす機会がないのかなと思ってたんですけど、うまくその地域の方、若い層を巻き込んで、引き止めるというわけじゃないですけど、地域の子どもたちが、地域でちゃんと遊べると言うんですかね。活動できる場をつくってもらいますので、山王地区もすばらしいと思います。松之宮のほうも、またよろしくお願いします。

防災とか減災というのは、切り口として物すごくいいですよ。阪神淡路大震災から28年になりますし、いつまで、なかなかモチベーションをずっと保つということは難しいですけど、こればかりは、もうやり続けて、やり続けてということで、防災力、減災力

をつけてもらうというのが、ひとつなりますので、またいろんな地域活動があったら教えてください。

ほかどうでしょう、皆さん。どうぞ。

【会場（弘治地域）】 弘治地域ネットワーク委員です。うちも、小学校が8年前に閉校になっておりまして、ふれあい喫茶を地域の会館でやっていたんですが、ちょっと手狭なところがあるので、小学校の体育館で毎月第2土曜にさせていただいております。その学校の中に今池こどもの家があって、お年寄りから子どもまで三世代ふれあい喫茶ということでさせていただいております。

いろんな方に参加していただいております。どうしても子どもが来ると、親御さんとかが来られますので、来月するときは、ちょっとお手伝いしてもらえませんかとか言いながら、徐々にですけども運営する側を増やしていくというような形でやっていっております。以上でございます。

【貝長先生】 ありがとうございます。北津守さんの地域のほうも、運営スタッフのほうにというところで、PTAとかOBの方とおっしゃってましたよね。聞くところによると、小学校の先生、校長先生とかがふれあい喫茶に来られるというところも、おっしゃってましたしね。なかなかふれあい喫茶、先ほどの松之宮さんも言うておられましたけど、次の世代次の世代とか、支援者、一緒にしてくれはる仲間を増やすというのも難しい課題の1つではあるのかなと思いますけども、そこは多分、皆さんと同じようにうまく巻き込みながら、いろんな仲間づくりというのを増やしていくということが、大事なのかなと思いますよね。

また、いろんな先行事例を教えてあげてください。山王地域の方もね。教えてあげていただけたらなと思います。

【会場（松之宮地域）】 先生。

【貝長先生】 はい、どうぞ。

【会場（松之宮地域）】 1点ちょっと言い忘れしました。山王集会所の広場を地域の子どもたちに開放されてるという話ありましたですよ。それって、松之宮も老人憩いの家の広場を開放すれば、バスケットがやりたい子どもや行き場のない子どもが行くと思うんです。そういう子どもたちのために、老人憩いの家の広場もやはり開放してあげるのも一つの手かなと思って。私も、今、青少年指導員をやってますから、そこは役員会にかけて、地域のお母さん、お父さんを一緒に巻き込みながら、そこの前の広場使えたらいいなと、今一

瞬思いました。できるかどうか分かりませんが、そこはやっぱり何十年後の子どもたちが地域を担っていてもらうためにも、地域でできることあったねいう、そういう思いが繋がっていくのかなと思いますので、非常に参考になりました。ありがとうございます。

【貝長先生】 ありがとうございます。山王会長、一言。

【小西山王連合町会長】 ありがとうございます。今もほんとにそういう形で広げていったら、また新しい遊び場が出てくるとは思いますけど。それから防災訓練の話出ましたけども、山王地域、今言ってる阿倍野の金塚連合と飛田連合と山王連合、これが1つの金塚小学校の校区です。3連合同で金塚小学校を舞台にして、防災訓練を続けておりました。コロナでちょっと飛びましたけど、去年は。そういう形で、1つの連合じゃなくて、学校がそうやって分かれてくれば、各連合も地盤で合同の連合防災訓練というような形もできるんじゃないかと思ってます。また、各連合と相談しながら進めてやってください。

【貝長先生】 ありがとうございます。会長、集会所に広場貸すというのに、何か皆さんからハードルが高いものってありましたか。会長とは全然なかったんですか。

【小西山王連合町会長】 いや、広場は彼ら（子どもたち）がつくったので。

【貝長先生】 ということらしいので。

【小西山王連合町会長】 やっぱり子どもたちが場としてね。確かに言えば、けがしたらどうするとか、いろいろ問題はあると思いますけども、やってみたら、それほど難しいことじゃないでしょうし、それなりに子どもたちもばかじゃないんで、自分たちのルールはやっぱり守っていくみたいです。最初、子どもたちが集会所に来たときには、やっぱり靴がちゃんと脱げなかったですけどね。一言、靴はそろえよと言ったら、やっぱり一人一人そろえたら、皆そろえていきます。だから、わあわあ言わんと放つといたら、子どもたちが頭いいですから、というふうに、ような使い方してます。

【貝長先生】 ありがとうございます。では、ほかどうでしょうか。

【会場（津守地域）】 いいですか。

【貝長先生】 はい、どうぞ。

【会場（津守地域）】 私たち、津守地域、多分連合の中でも、連合会には入れなかったけども、ジャガピーパークという居場所があります。もちろん津守の地域では、退職されて過ごして、この間、久しぶりに、3年ぶりにふれあい喫茶、おぜんざいである、配るというか、持って帰っていただくだけのふれあい喫茶をやったんですけども、それといきい

き元気教室、百歳体操といろいろ高齢者の方の活動をさせていただいてるんですけども、また子どもたちが、遊びに来られるジャガピーパークというのを開催しております。

これは、西成区の特区でさせていただいてるんですけども、その中で、もうそろそろ8年前、津守小学校も閉校になりまして、その跡地をどのような使い方をしたらいいかということで、大学の研究材料として、ジャガピーパークはできました。その中で、それこそ未就学で来てた子どもたちが中学に入り、高校になり、それでもたまに、居場所があるというのがすごくいいのか、遊びに来てくれてるとい、ああ、皆ほんまに大きくなったねって、一瞬見間違うぐらいの成長ぶりを見せていただいているというのが。このジャガピーパークを、西成に、ぜひ皆さん、西成津守は、西成の西のほうにあるんです。なかなか交通の便が悪いんですけども、本当に花園からバス、で、あべのからバス、なんばからバスと、バスしかないような地下鉄だと花園町から歩いていただく、岸里から歩いていただく、天下茶屋から歩いて15分、20分かかるといところなんですけれども、本当にいいところで、子どもたちの成長ぶりが見れるというのが、素晴らしいところかなと思います。

ぜひ、各地域の、この頃、ちょっと南津守さん、北津守さんにも来ていただいている、千本さんも来ていただいている、岸里さんも来ていただいているというところで、もっと皆さん、来ていただいて、見学していただいて、こういう子どもの遊び場があるということをぜひ知っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【貝長先生】 ありがとうございます。

そうか。今、発表してくれはった3つの地域は、それぞれみんな小学校が廃校とかが出てきてるんですね。なるほど、なるほど、なるほど。やっぱり皆さん、子どもさんが少なくなつたなとか、皆さん、西成区の高齢化率って御存じですか。太子町は、今、多分30.3ですけども、皆さん西成区の高齢化率って御存じですか。

【会場（松之宮地域）】 松之宮は43です。

【貝長先生】 おお。ちなみに、43って高いか低い、知ってはりますか。

【会場（松之宮地域）】 高いんだっけ。

【貝長先生】 今、西成区全体でいうと、多分ちょうど40ちょっと超えるかなというぐらいになるのかなと思います。40超えても全然、よく高齢化率33%以上はねという話を言うたりするんですけどね。全然いいですよ。今日みたいに、皆さん元気な人ばかりやったら。高齢者がたくさんおっても、全然大丈夫。多老化ということで、高齢者の方が多

いということは伝えますけどもね。元気であれば、少子高齢化も怖くないというところを太子町でも言うてますのでね。小学校が廃校になったとか、隣の区域に行くねんでは、ちょっと寂しいところをお話いただきましたけど、そのジャガピーパークとか、面白いものができてきてるといのがいいのかなと思いましたね。

さて、ほかどうでしょう。手が挙がりました。ありがとうございます。

【会場（橘地域）】 橘は、老人憩いの家が老朽化したんで、去年の12月に建て替えました。新しくできたんで、今度、今月の28日の土曜日に、お披露目会をしたいと思います。朝10時から。ほんで、昼からふれあい喫茶をやりたいと思います。ですから、もしお手数、空く方があったら、お昼からのふれあい喫茶に来ていただいたらいいかと思えます。

それと、橘は、小学校、皆さん、小学校統合したり何かされてると思います。橘は、去年開校100周年、盛大にやりましたんで、橘の校舎のほうも見に来ていただいたらいいと思います。

それぐらいかな。ほんで、新しく老人憩いの家を建て替えて、老人憩いの家という名称をやめて、橘コミュニティーセンターというのにして、今までやったら、老人の方とか使われてたんですけど、若い方も使っていて、地域の活性化につなげたらいいかと思えます。子育て支援センターもやっていますので、よろしくお願ひします。

それから、橘地域にあるお寺で、善教寺というお寺をお借りして、地域の方集まっていたいて、和のつどいというのをやってるんですね。これも、また地域の方が寄っていただいて、自分らの思ってることをいろいろ話し合っていたらいいかと思えますので、またのぞきに来ていただいたらいいかと思えます。以上です。

【貝長先生】 ありがとうございます。

橘のコミュセンが5年1月28日お披露目というところで、ふれあい喫茶、ぜひとも時間お手隙の方は、行っていただいたらいいのかなと思って。100周年の小学校、すごいですね。すごいですね。

老人憩いの家がコミュニティーセンターという、地域の人がみんなが使えるように、模様替えしながらというところも、すごく地域の実情に合わせた活動というところになるのかなと思ってますね。

ぜひとも皆さん、ふれあい喫茶のほう行ってあげてください。

では、お時間のほうがもう始まって1時間半近くなってきたんで、この辺で一旦、皆さ

んからの御意見というのを終了させていただきたいなと思います。

北津守地域のみなさん、山王地域のみなさん、ありがとうございました。

では、この辺で司会のほうにマイクを一旦返したいと思います。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 皆さんありがとうございました。北津守さんではP T A、山王さんでは地域ということで、若い世代を取り込んで、担い手の確保をされるということと、あとは発表いただいた地域におかれても、それぞれのすばらしい部分というのが入ってるなど。ほかの地域でも、いろんなことをされてるかと思いますので、今回の発表を参考にいただき、推進していただけたらと思います。

最後になりましたけれども、講師である貝長様より本日の感想をいただきたいと思いません。よろしくお祈りします。

【貝長先生】 本日、北津守地域、それから山王地域、それからいろんな皆さん、最後に自分とは、今そうやってるんやよというお話を伺いました。

一言で申し上げると、西成区ってすごいなというふうに思いました。地域福祉、僕はあんまりそういうのを学校の先生みたいなこと言いませんけど、地域福祉を実践する中で、意外と難しいと言われるのが、混ぜる、混ざる、掛けたりする掛けるというのが難しいのかなと思うんです。でも、顔の見える関係がある、これ、御近所の力ですよね。御近所やからこそできる御近所の力ですよね。学校関係、P T Aや青少年指導員、こちらは地域の力ですよね。どちらが強過ぎても、片方だけが強過ぎても駄目、弱過ぎても駄目。これがうまく混ざり合って、御近所の力と地域の力が掛ける、イコール西成区の力、西成区の底力になるのかなと思います。

これが、無意識なのか、意図的なのかは別にして、上手に巻き込んで、巻き込まれてる点。もしかしたら、巻き込まれてるんかもしれないですね。巻き込まれてる点は、他の市区町村、同じ区域の方、地域の方、それからほかの市町村を教えていただきたいな、教えてあげてほしいなというふうに思いました。

最近、私地域の方に、福祉予防という言葉を使うんですね。介護の予防とか健康の予防とか、そうではなくて、福祉の予防という言葉を使うんですけども、福祉課題に対して、事前に備えておこうというものなんですけども、これから御近所の力だということと掛け合わせて、地域の力ということのを掛け合わせて、西成区の福祉予防の力を大きく見習わせていただきたいなと思いました。ありがとうございました。

【司会 地域福祉推進会議事務局永岡】 講師の貝長様、フォーラムの進行含め、ありが

とうございました。

改めて貝長様への感謝の気持ちとして、皆さんからの拍手をお願いいたします。

(拍手)

では、以上をもちまして、本日の地域フォーラムを終了いたしたいと思います。

最後になりましたが、パンフレットの中に入れておりましたアンケートの記入と提出をお願いいたします。あと、チラシを入れてるんですけども、来週また、ほっと！ネット西成博ということで、土曜日区役所のほうで開催されますので、そちらのほうもよろしくをお願いいたします。

皆様、どうもありがとうございました。

以 上